



2025年野球殿堂入り通知式

館長 庄司正信

1月16日(木)野球殿堂博物館を臨時休館にし、午後2時30分より殿堂ホールにおいて2025年野球殿堂入り通知式を開催いたしました。競技者表彰のプレーヤー表彰は、オリックス・ブルーウェーブ、シアトル・マリナーズで活躍されたイチローさん、中日ドラゴンズで活躍された岩瀬仁紀さん、エキスパート表彰は、阪神タイガースで活躍された掛布雅之さんが選出されました。また特別表彰からは、元セントラルリーグ審判部長の富澤宏哉さんが選出されました。

当館の榊原定征理事長から本年の野球殿堂入りの発表がなされた後、澤田啓太郎競技者表彰委員会代表幹事及び井原敦特別表彰委員会議長より、それぞれの委員会での選考過程について報告がありました。

続いて、殿堂入り通知書の授与、顕彰者の挨拶が行われました。最初にイチローさんから、殿堂入りの喜びと感謝を話された後、「時代が変わっていくものもあるが、変えてはいけけないものもあると思う。自分はそこを強く意識して、子供たちと接していきたい」とのメッセージが語られました。そして阪神・淡路大震災について一被災者としての思いを話されました。

次に岩瀬さんからは、星野仙一さん(2017年殿堂入り)、山田久志さん(2006年殿堂入り)、落合博満さん(2011年殿堂入り)、森繁和さんなど歴代の監督、キャッチャーだった谷繁元信さん(2023年殿堂入り)への感謝の言葉に続き、「現役中は記録を振り返ることはなかった。終わって1002試合登板、407セーブを実感し、よくこんなにやったなと思った」と自分を褒める言葉がありました。

掛布さんは、王貞治さん(1994年殿堂入り)、長嶋茂雄さん(1988年殿堂入り)に憧れ野球を始めたいきさつを話された後、「昭和60年に王監督、4番原選手の巨人を倒し日本一になったのが良い思い出です」と語り、今日の殿堂入りは震災で苦しんでいる方々を笑顔にするような活動を今後もやっていくなさいというメッセージと受け止めている、と決意を述べられました。

富澤さんは、93歳というご年齢でしたが、元気良く大きく左腕を上げられ、「長生きして良かった」喜びを表現されました。

続いてゲストスピーチに移りました。イチローさんには2006年のWBCでの監督だった王さんより、お祝いの言葉と「ボールとバットを結ぶ天才だった。相手チームとしては本当に嫌な存在だった」と現役時代のイチローさんを讃えていただきました。岩瀬さんには中日でコーチ、監督だった森さんより、「こき使った覚えはないが、1002試合登板、407セーブという素晴らしい記録を達成した。日本一になった時の2人での完全試合は今後達成されることはないだろう。」と岩瀬さんの偉業を称賛していただきました。

掛布さんには同時代にライバル球団でしのぎを削った原辰徳さん(2018年殿堂入り)から、どんな時も威風堂々とプレーされているのを目標にしてきたとの話と、「阪神には負けても、掛布さんには負けないという気持ちで試合に臨んでいた」とライバルだった頃の思い出を語っていただきました。富澤さんにはセントラルリーグ審判の後輩であるNPB野球規則委員の友寄正人さんより、とても厳しい審判で、ルールの話であやふやな答えをした時に「貴様、帰れ」と叱られたが、翌日に丁寧な手紙をいただいたとのエピソードを紹介していただきました。

最後に殿堂入りされた方々とゲストスピーカー、理事長を交えた記念撮影を行いました。控室では、審判員の富澤さんが殿堂入りしたこともあり、現役時代の審判や判定の話、そして日常生活の話など、皆さん和気藹々と親睦を深めていました。顕彰者の皆様、この度は野球殿堂入り誠にありがとうございます。



前列左から:イチロー氏、岩瀬仁紀氏、榊原定征理事長、掛布雅之氏、富澤宏哉氏
後列左から:王貞治氏、森繁和氏、原辰徳氏、友寄正人氏

2025年野球殿堂入り

競技者表彰委員会

第65回競技者表彰委員会はプレーヤー表彰でオリックス、シアトル・マリナーズなど日米で活躍したイチロー氏と、中日一筋にプレーした岩瀬仁紀氏を選出した。

プレーヤー表彰の候補者は、現役引退から5年経過かつ20年以内の有資格者の中から競技者表彰委員会幹事会が選ぶことになっている。今回は28名が選ばれ、15年以上の野球報道経験を持つ委員が最大7人連記で投票を行った。委員総数は353、投票委員数は349、有効投票数は349だった。

当選には有効投票数の75%以上の得票が必要で、今回は262票。イチロー氏は得票率92.6%の323票を獲得、岩瀬氏は同88.3%の308票を獲得した。イチロー氏の得票率は、1994年の王貞治氏の93.2%に次ぐ、史上6番目に高い数字だった。ちなみに歴代最高の得票率は1960年度に殿堂入りしたスカルビン氏（元巨人など）の97.3%（有効投票数111、獲得投票数108）。イチロー氏は史上7人目となる資格取得初年度に、岩瀬氏は資格取得2年目に殿堂入りした。傑出した成績を残した2人が同時に当選した。

イチロー氏は日本で1278安打、MLBで3089安打、日米通算4367安打という大記録を打ち立てた。日本では7年連続首位打者、MLBでも首位打者2回、最多安打7回、盗塁王1回と輝かしい成績を残した。2004年にはMLB年間最多安打記録を84年ぶりに更新する262安打を放ち、歴史に名を残している。また、46歳シーズンまで28年間、現役生活を送ったことも特筆される。



イチロー氏

イチロー氏通算成績

NPB実働9シーズン	951試合	3619打数	1278安打
118本塁打	529打点	打率.353	
MLB実働19シーズン	2653試合	9934打数	3089安打
117本塁打	780打点	打率.311	

ゲストスピーカーとして登壇した王貞治氏は「イチロー選手に限って言えば、（引退から）5年も待つ必要なかった」と最大級の賛辞で祝福。イチロー氏は「日本では9年間しかプレーしていない。選ばれてとても光栄」と謙遜した。通知式の翌日は阪神・淡路大震災から30年の節目の日でもあり、感慨深げな表情が印象的だった。

岩瀬氏はプロ野球最多の1002試合に登板し、史上最多の通算407セーブをマークした。中日の守護神として君臨し、リーグ優勝5回、日本一1回に大きく貢献。2007年の日本シリーズでは、8回まで完全投球の山井大介投手の後を継いで9回から登板し、見事に完全試合リレーを達成。とてつもない重圧を克服して日本一の胸上げ投手になったこの試合は、野球ファンの間で今でも語り草になっている。スピーチで岩瀬氏は、一緒に戦った歴代監督全員の名前を挙げて、謝意を表した。そのうちの一人でゲストスピーカーとして参列した森繁和氏は「リリーパーは普通、5、6年でへたる。岩瀬は抑えを15年近く続けたのだから、本当に頭が下がる」と功績を讃えた。



岩瀬仁紀氏

岩瀬氏通算成績

NPB実働19シーズン	1002試合	59勝51敗	407セーブ
82ホールド	985回	841奪三振	防御率2.31

昨年度当選者なしだったエキスパート表彰では、阪神の主砲として活躍した掛布雅之氏が出選された。

投票権を持つ委員は、すでに殿堂入りされている方と競技者表彰委員会の幹事及び野球報道経験30年以上の方々。今回の委員総数は152、投票委員数147、有効投票数は145だった。幹事会が選んだ20名の候補者を対象に、最大6人連記で投票を行った。当選には75%以上の得票が必要で、今回は109票。掛布氏は得票率76.6%の111票を獲得した。前回は2票差で惜しくも当選を逃したが、今回は当選必要数を2票上回った。

掛布氏は阪神にテスト生同然で入団し、1年目から1軍に定着。浜風の影響で左打者には不利と言われる甲子園で広角に打球を飛ばし、本塁打王3回、打点王1回を獲得。1985年にはランディ・バース氏（2023年殿堂入り）、岡田彰布氏とクリーンアップを組み、巨人戦で甲子園バックスクリーン3連発の伝説をつくり、この年の日本一に貢献した。

掛布氏は、ミスタータイガースの先輩、田淵幸一氏（2020年殿堂入り）から「タテジマを途中で脱ぐような選手にはなるな」と言われたエピソードを披露。巨人の4番として掛布氏としてのぎを削った原辰徳氏（2018年殿堂入り）は、ゲストスピーチで「まさに若トラここにありで、プロ入り前の私の憧れでもありました」と祝福した。

2025年野球殿堂入り



掛布 雅之氏

掛布氏通算成績

NPB実働15シーズン 1625試合 5673打数 1656安打
349本塁打 1019打点 打率.292

来年度に目を転じると、プレーヤー表彰では川相昌弘氏と宮本慎也氏が得票率上位につけている。川相氏は候補資格最終年になり、どこまで積み上げることができるか。エキスパート表彰では栗山英樹氏が得票率を伸ばしており、長池徳士氏とともに有力な選出候補に名乗りを上げた形だ。

競技者表彰委員会幹事会代表幹事 澤田 啓太郎

写真提供:ベースボール・マガジン社

特別表彰委員会

第64回特別表彰委員会は、1月9日に東京ドームホテルで開催され、本年の殿堂入りにプロ野球で審判を務められた富澤宏哉氏(93歳)を選出した。

今年は、昨年の候補者から野球殿堂入りした谷村友一氏らを除く8名の候補者に、新たに2名の候補者を加えて選考が行われた。当日の委員会には委員13人が出席(欠席1名)。表彰委員会規程第25条が定める委員半数以上の出席となり委員会は適正に成立した。

選考の議論では、まず候補者全員の履歴・球歴が改めて紹介され、委員がそれぞれに意見が述べた後に投票が行われた。その結果、富澤氏が殿堂入りに必要な出席委員の75%以上の投票(12票)を獲得した。同規程第21条(表彰対象者の資格)にある「NPB及びアマチュア野球の審判員を引退した者」であり、同規程24条(候補者選考の要件)(2)「審判員として、顕著な功績」、(3)「後進の育成」そして(5)「国際交流」における業績が讃えられた。

富澤氏は、社会人野球の審判員として活動された後、1955年にプロ野球・セントラル野球連盟審判部に入局され、以来、実働35年で通算3,775試合に出場。これは歴代二位の記録となる。オールスターゲーム出場9回、日本シリーズも9回の出場も果たされた。1959年6月の天覧試合(巨人対阪神戦)では、左翼外野審判員を担当された。また、1977年9月に王貞治氏が756号本塁打を達成した試合の球審も務められている。プロ

野球の歴史を彩る名場面に蝶ネクタイ姿の富澤審判員の姿があった。

1972年には、米国のアル・ソマーズ審判学校に自費留学された。これは日本人審判として初の留学渡米だった。その後も何度も米国審判学校に足を運び、最新の審判技術を学びながら、MLB審判員との交友関係を構築した。1980年にセントラルリーグ審判部長に就任すると、その経験を活かして、若手審判員を公費で米国審判学校へ留学させる制度を確立した。その制度は現在も継続され、今ではNPB審判員のほとんどが、米国留学を経験している。引退後はプロ野球規則委員、全日本軟式野球連盟顧問などを歴任し、野球の発展、振興に尽力された。



富澤 宏哉氏

1月16日に開かれた「2025年野球殿堂入り通知式」では嬰鏢とした姿で出席された。式には王貞治氏が競技者表彰・イチロー氏のゲストスピーカーとして列席されていた。王氏や同じくゲストスピーカーの原辰徳氏そしてエキスパート表彰の掛布雅之氏とは久しぶりの再会。相好を崩す富澤氏に、原氏はお祝いの言葉と共に「厳しい審判でしたね」と往時を振り返り話しかけた。通知式には、後輩もお祝いに多く駆け付けた。現在ではNPBの幹部審判員の彼らは、若手の頃に富澤先輩から厳しく受けた指導を今でも「大切な指針」としている。

曰く、「審判員は、試合中の立ち姿が特に重要。ズボンの外側縫い目に中指を合わせることで、自然と背筋が伸びる。その美しい姿勢を保つ」。「審判員は、どのチームにも属さないことを示すため、白のハンカチを使用すべき」。「困ったことがあった場合は、まず自分の経験してきた豊かな常識に照らし合わせて考える。そうすれば、正しい答えにたどり着ける」。「どんな質問にも即座に答えられるよう準備しておく。そして即座に言い切る。間違っていた場合は、後に訂正すればよい」。出張先の宿舎の夜では、しばしばルール勉強会が開かれた。若手審判員が答えを言い淀むと、即座に「貴様、帰れ!」と叱責が飛んだ。翌日にその若手審判は手紙を受け取る。こう記してあった。「自分の子供のような年齢の君にきついことを言った。ただ、審判の仕事は判断において即答が必要なのだ」。

厳しさと包み込むような愛情でプロフェッショナルの姿を後進に伝えた功績は、これからも輝き続けるだろう。

特別表彰委員会議長 井原 敦

写真提供:ベースボール・マガジン社



北別府学氏

殿堂入りの人々を語る(77)

野球人として変わっていった主人のこと

北別府広美 (2012年野球殿堂入り 北別府学氏 夫人)

現役時代、とにかく良い投球さえすればチームを勝ちに導くことができる、ファンの方の期待に応えることが出来るという信念の下、勝つことの邪魔するものは許さないという雰囲気や常に漂わせていました。先発の日には家族さえもチームメイトさえも話しかけられないほど、そして自分を追い詰めるほどの緊張感を持って試合に臨んでいました。ですから球場でサインを貰うために待っていてくださった子供さん達が、先発に臨む北別府には誰も声をかけられなかったそうです。

我が家の3人の子供達は、現役中は父親と遊んだことなどなく、ただひたすらに怖い父親だったと今でも話題にしております。現役を引退した時には、あのビリビリとした緊張感が無くなるんだと家族皆、心から安堵したものです。引退したら少しは子供達の相手くらいはと期待していましたが、はたして当の本人、現役中にはあまり出来なかった友人達とのゴルフや釣り、アウトドアなどの趣味に没頭していました。そのような仕事への姿勢を永らく続けてきたのですから引退後、プロ野球解説者となっても温かみのない真面目の塊のような解説で現役の選手の方々への言葉もとても厳しい、そんな仕事の仕方だった様に思います。人としても、他人の間違いを許す寛容さに欠けているのではとハラハラする場面が多くて、もう少し気楽に生きて欲しいと主人に対して感じていましたし、案じてもしました。

そんな、少し人間味や暖かみにかけるような生き方をしてきた主人が2012年に野球殿堂入りを果たした際、言葉も無いほど高揚している、初めて見た今までの主人とは違う姿を今でもはっきりと覚えています。殿堂入りした際の通知式に着用するスーツの用意を忘れるなど動揺している姿を家族や友人の方と喜び見守ったものでした。それから徐々に生活の中でも仕事に対する姿勢も変わっていったのでした。

野球という仕事に対しても楽しんでる姿を初めて見たと言ってはプロ野球選手だった北別府に対して失礼な表現かもしれませんが、解説する時、野球を教える時、メディアに出演する時、そして生活すること生きることをやっと楽しんでくれたのではないかなと思えるほど生き生きとした主人の姿がありました。

そのような姿勢を仕事でも評価して頂いたのでしょうか、野球の仕事以外にもマスコミの仕事や講演会も増え、それは多忙ながらも嬉々として仕事に臨んでおりました。全ての面において気持ちの余裕をもって生きてくれている!と、傍でハラハラとしていた身にとりまして、それは心から有り難いと思っていたのですが家庭でも柔和な表情で会話を楽しんでくれるそんな姿を見せてくれるようになりました。

殿堂入りから2年後、広島市で豪雨災害があり大変な被害を目の当たりにした主人は、仕事の合間に自主的に数ヶ月の間、ボランティアに勤しみました。また、東日本大震災で被害を受けた地域での野球教室にも継続的に参加させて頂くなどの意義のある活動を喜びとすることができました。仕事や生活を楽しむ生き方をするようになったことを本人も満足していたと確信しております。

発病しましてから3年半の闘病生活でしたが、病気と闘いその姿を同じ病気で苦しむ人たちの希望となりたいと言い、苦しいとも言わず病とも向き合っていました。

皆様から多くの励ましをいただき最後までその様な考えを持つことができましたこと、心から幸せな人生だったのではないかとつくづく思います。そして、そんな主人の姿を見ることができるようになったきっかけは、野球殿堂入りさせて頂いた事と心より感謝して止みません。

知ってほしいこんな資料(102)

侍ジャパン 2024年の活躍 コーナー展示

2024年、侍ジャパン女子代表、U-15代表、U-23代表の3チームが、それぞれWBSC主催のワールドカップで優勝し世界一となりました。侍ジャパン事業がスタートした2013年以降、同じ年に3つの世界大会を制したのは初の快挙で、当館ではこれを記念して、エントランスホールにてコーナー展示「侍ジャパン2024年の活躍」を実施しました（期間2024年10月12日～2025年1月15日）。

展示資料は下記の通りで、会期終了後、一部資料は常設展示に移し、展示を継続しています。また、第11回 BFAU12アジア野球選手権メンバーサイン入りユニホームを常設展示少年野球コーナーに展示しました。今後も侍ジャパンの関連資料を積極的に収集、展示し、多くのファンの皆様にご覧いただきたいと考えています。

- 第6回 WBSC U-15ワールドカップ 優勝トロフィー ※1、写真
- 第9回 WBSC 女子野球ワールドカップ 優勝トロフィー、写真
- 第5回 WBSC U-23ワールドカップ 優勝トロフィー ※1、写真、サイン入りウエア
- 第13回 BFA U18アジア選手権 準優勝トロフィー、メダル
- 第2回 Baseball5 アジアカップ2024 優勝トロフィー ※1
- 野球日本代表 侍ジャパン 新ユニホーム(レプリカ) ※2
- 侍ジャパンU-18 壮行試合 高校日本代表対大学日本代表サインパネル



※1.10月19日より追加して展示 ※2.11月29日よりプレミア12井端弘和監督、森下翔太選手ユニホームに変更。また、隣接した場所に、藤平尚真投手、小園海斗選手ユニホーム、銀メダル、大会使用球を展示

学芸員 関口貴広



こんにちは図書室です



日本最初の野球専門雑誌「月刊ベースボール」

今回ご紹介するのは、日本で最初に発行された野球専門雑誌の「月刊ベースボール」です。

明治41（1908）年11月20日に「野球研究会」より創刊され、明治44（1911）年8月の第4巻9号（通算第34号）まで毎月1回発行されていました。編集兼発行人の鷺澤與四二氏は、長野県上田中学校（現上田高等学校）の野球部で一塁手として桜井彌一郎（1960年殿堂入り）らとともにプレー。その後、慶應大学へ進学します。明治41年の慶應大学野球部の初めての海外遠征の際には監督としてチームに帯同し、ハワイに遠征しています。

鷺澤は明治41年の大学卒業後、野球研究会を立ち上げ、「月刊ベースボール」を発行しています。発刊之辞「現時の野球技とベースボール研究」では、「…天下野球家に研究機関を提供し、以て所謂日本野球の完成を期せんとするものなり。」と述べています。創刊号の奥付には、「編集兼発行人鷺津與四二」と表記されていますが、これは誤植だと思われます。雑誌の執筆者は慶應大学関係者が多かったため慶應色が強い作りとなっており、読者の投稿欄で指摘されています。

その後、「月刊ベースボール」は「野球界」と改称されます。当室では、第1巻1号～第4巻9号まで（第2巻2号、10号は欠号）を所蔵しております。ぜひご利用ください。

司書 永沼里菜子

■図書室の開室時間

図書室は事前予約制です。詳しくは、<https://bml.opac.jp/opac/Top> でご確認ください。



「月刊ベースボール」創刊号

野球殿堂博物館 トピックス

■展示 「阪神甲子園球場 100年のあゆみ」

会期 2024年9月14日(土)～11月24日(日)



■展示 「2024年 プロ野球引退選手 特集展示」

会期 2024年11月26日(火)～2025年2月2日(日)



■展示 企画展「野球報道写真展2024」

会期 2024年12月7日(土)～2025年2月2日(日)

本企画展は2015年にスタートし、今回で10回目の開催を迎えました。「ベストショット オブ ザ イヤー」は、3月に発表予定です。



オープニング見学会ゲスト・青木宣親氏



NPB新人研修にて
広島・佐々木選手とロッテ・西川選手



NPB新人研修にて
ヤクルト・中村投手と中日・金丸投手

■野球の学校2024

公式記録員が教える「NPB式スコアの付け方」教室 (中級編・勝利投手の考え方)

2024年12月14日(土) 17:30～19:00

NPB記録部長の山川誠二氏をお迎えし、「勝利投手の考え方」をテーマに、投手の勝敗記録を付ける方法について深掘りし、特に自責点について詳しく解説していただきました。参加者は、実際の試合を元にした具体的な事例を通じて、スコアリングの技術を学びました。



■コンサート 文の京(ふみのみやこ)コミュニティコンサート

2024年12月25日(水)

公益財団法人文京アカデミー主催の特別企画「文の京コミュニティコンサート」が開催されました。2023年に野球殿堂入りした作曲家 古関裕而の楽曲メドレーや、クリスマスにちなんだ心温まる音楽が会場に響き渡り、来場者を魅了しました。演奏を担当したのは、シエナ・サクスの皆さんです。

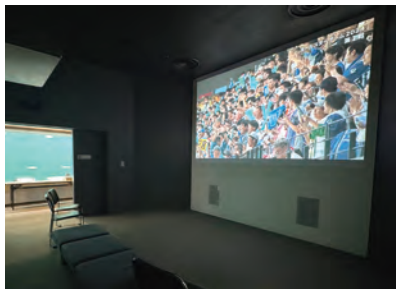


2月の改装と3月からの展示について

当博物館では2月3日（月）から28日（金）を臨時休館し、以下の改装、リニューアルを実施しました。これらは3月1日（土）からご利用いただけます。皆様のご来館をお待ちしています。

◀ 映像シアターリニューアル ▶

4:3比率の100インチだったスクリーンを、16:9比率で約2倍の面積となる150インチに拡大しました。あわせてプロジェクター、アンプやスピーカーも最新機種に更新し、より大画面で迫力ある映像をご覧いただけるようになりました。



◀ 館内案内サイン ▶

従来、展示室のサインは日本語と英語の見出しのみで構成されていましたが、エントランスなどと統一感を持たせ、視認性を高めたデザインで、海外からのお客様の増加にも対応するために韓国語、中国語（簡体字、繁体字）を加えた新たなサインを設置しました。また、各展示コーナーの説明パネルも多言語で新設し、わかりやすくご覧いただけるように改善しました。

◀ 「やきゅうの本だな」コーナーの新設 ▶

図書室の本や雑誌を気軽にご覧いただけるコーナーを、図書室前に新設しました。

◀ カーペット更新 ▶

プロ野球の歴史コーナーと、野球殿堂ホールのカーペットをリニューアルしました。

◀ クレジットカード決済導入 ▶

今までご入館のお支払いは現金のみでしたが、クレジットカードでのお支払いも可能となります。

※電子マネー、QRコードには対応しておりません。

◀ 企画展 ▶

「野球殿堂1959～2025 沢村栄治からイチローまで」

期間：2025年3月1日（土）～7月6日（日）

日本の野球殿堂は、当博物館の開館とともに創設され、昨年65周年を迎えました。

今年、イチロー氏、岩瀬仁紀氏、掛布雅之氏、富澤宏哉氏が新たに加わり、222名が野球殿堂入りとして顕彰されています。本展では、野球殿堂の概要とそのあゆみを、顕彰者にかかわるコレクションとともに紹介します。

※5月13日（火）より展示資料の一部を入れ替え予定



◀ 特集展示 ▶

「大リーグ 日本人選手とレジェンドたち」

期間：2025年3月1日（土）～6月29日（日）

当館では、前人未到の50-50を達成した大谷翔平選手（ドジャース）が昨年3月30日に着用したユニホームを球団より収集しまして、本展にて初公開します。また、当館コレクションより、本年殿堂入りのイチロー氏をはじめとした日本人大リーガー、日米野球で来日した名選手のユニホームや用具などを展示します。

入館料改定のご案内

昨今の物価高に伴い、当館の運営コストも増加しているため、右記の通り入館料を改定させていただきます。今回の改定は2014年以来約10年ぶりとなります。

職員一同、さらに野球の普及振興に取り組む所存ですので、ご理解を賜りたくよろしくお願いいたします。

【新入館料】 ●大人 800円(700円) ◀ 600円(500円)

●65歳以上 500円 ◀ 400円

●高校生・大学生 500円 ◀ 400円

●小学生・中学生 200円(150円) ※据え置き

●障がい者：大人 500円 ◀ 400円

小学生・中学生 150円 ※据え置き

() 内は20名以上の団体料金

展示のお知らせ

「第9回 野球で自由研究! コンテスト」作品展

会期：2025年3月23日(日)～4月13日(日)

会場：殿堂ホール

2024年に小学生を対象とした「第9回 野球で自由研究!コンテスト」(主催：公益財団法人野球殿堂博物館、協力：一般社団法人日本野球機構、株式会社 NPBエンタープライズ)を開催しました。2024年8月1日(木)～11月15日(金)の期間、野球をテーマとした自由研究の作品を募集したところ、197作品の応募がありました。

山中正竹氏(2016年殿堂入り、一般財団法人全日本野球協会会長)、田原淳子氏(国士舘大学教授)、平田稔氏(一般社団法人日本野球機構野球振興室長)、栗山英樹氏(北海道日本ハムファイターズチーフ・ベースボール・オフィサー)、庄司正信館長の5名による審査の結果、受賞作品が決定しました。

受賞作品の発表と受賞者への表彰式を3月23日(日)に行い、同日より、受賞作品を中心に子どもたちの力作・大作を展示する「第9回 野球で自由研究!コンテスト」作品展を殿堂ホールにて開催する予定です。



野球殿堂博物館 維持会員 (2025年2月6日現在・順不同・敬称略)

2024年8月21日以降、維持会員にご入会、または維持会費をご入金いただいた皆様です。有難うございました。今後ともよろしくお願い致します。

《法人・プラチナ会員 - 10年以上継続 -》日本野球振興世話人会

《個人・一般会員 - 5年未満 -》佃圭祐、安田拓人、川岸聖和、岡本成、岡本拓海、米沢谷友広、檜木隆広、小板橋明

New 博物館オリジナルグッズのご案内

● ピンズ (白・茶)

販売価格：各750円(税込)

当館のロゴとバット、ボールがデザインされた当館オリジナルの商品です。バットの色は2種類で好みの色をお選び頂けます。野球がお好きな方等へのお土産にもオススメです。



● ボールペン2025 (ケース付)

販売価格：1,650円(税込)

替芯：JF-0.5芯

ゼブラのSARASA Grandに館名がゴールドで刻印されており、高級感と重厚感あふれるオリジナルボールペンです。お買上時は黒インクが入っており、さらさらとしたなめらかな書き味が特徴です。ケース入りですのでプレゼントにもオススメです。



博物館からのお知らせ

博物館のご案内

場 所 東京ドーム21ゲート右

開館時間 10:00～17:00 (最終入館16:30)

※東京ドームでのプロ野球開催日は、18:00閉館 (最終入館17:30)

休 館 日 月曜日(祝日、東京ドームでの野球開催日、春・夏休み中は開館)、年末年始(12月29日～1月1日)

※2025年2月3日～28日まで臨時休館

※休館日及び開館時間に変更する場合がございますので、事前に当博物館ホームページにてご確認ください。

訃報

1992年殿堂入り・吉田義男氏が2025年2月3日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

●編集後記 約1ヶ月の臨時休館中に、シアターのリニューアルや受付にクレジット決済機器を導入致しました。3月には東京ドームにてMLB開幕戦も開催されますので、是非、博物館にもご来館下さい。

野球殿堂博物館 Newsletter 第35巻 第1号

2025年2月22日発行

編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館

〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61

Tel 03 (3811) 3600 Fax 03 (3811) 5369

<https://baseball-museum.or.jp/>

